



バックナンバーがPDFファイルでご覧いただけます。



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**が米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、平成29年度に行なわれた米子城の発掘調査の成果について、調査を担当したハマノ学芸員を交えて学びます。

**かるちゃん**：先月行なわれた「史跡米子城跡発掘調査現地説明会」、二人とも行ったよね。最新の発掘調査成果はどうだったかな？

**ジローくん**：米子城に「**豎堀**」があったなんてびっくりだよ！

**ミナちゃん**：今回の説明会では実際に豎堀を歩くことができたので、その迫力が実感できたわね。160人も参加者がいて大盛況だった。

**かるちゃん**：平成28年度の調査では本丸北側の遠見櫓から北西の内膳丸に向かって連なる**登り石垣**の存在が明らかになった。そして今回確認されたのが豎堀だ。発掘調査を担当しているハマノ学芸員に来てもらっているのだから、話を聞いてみよう。

**ハマノさん**：こんにちは。皆さんお久しぶりです。現地説明会にもお越しいただきありがとうございます。米子城跡の豎堀、いかがでしたか？じつは豎堀というのは、中世の山城によく用いられた防御施設なんです。近世のお城で堀っていうと、お城の周りに水などを張って巡らせた水堀がイメージされると思いますが、この豎堀は斜面を登るように掘られた空堀で、敵の横方向の斜面移動を遮断するための防御施設なんです。

**ジローくん**：斜面を登るので、お城に対して縦（豎）ってことなんだね。確かに、あれじゃあ敵が尾根を横切って城の手薄なところを突こうと思っても簡単には越えられないよね。

**ハマノさん**：今回確認された豎堀は本丸番所跡から、二の丸枅形に向かって北東方向に直線的に63m伸びています。堀の幅は13m、深さは北壁側で約6mもあるんですよ。しかも、この豎堀は番所の下**の「切岸」という人工的な崖に繋がっている**ので、なんとか斜面を登ってきた敵もこの番所の下に誘い込まれて一網打尽というわけです。湊山の地形を生かした巧妙なつくりですよ。

**かるちゃん**：で、この豎堀とセットになっていたのが、昨年確認された北西側の**登り石垣**というわけだね。この左右2つの防御施設で、城主の御殿がある二の丸を守っていたというわけだ。

**ミナちゃん**：登り石垣は、豊臣秀吉の朝鮮出兵時に朝鮮半島の「**倭城**」建設に用いられた当時の最先端技術よね。それと中世以来の伝統的な防御施設である豎堀をセットで使うなんて、すごい工夫ね。

**ハマノさん**：さらに今回の調査では、豎堀の構造がわかったほか、出土遺物からも大きな発見があったんですよ。

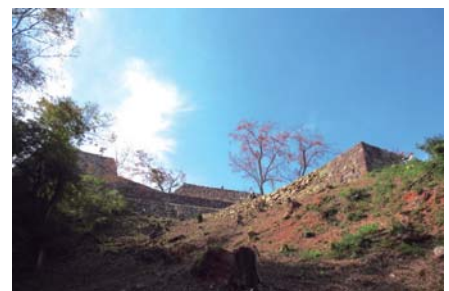
**ミナちゃん、ジローくん**：そうなんだ～。もっとくわしく知りたいなあ。教えてハマノさん！

**毎年新たな発見がある米子城跡、発掘調査成果のお話は次回に続きます。お楽しみに！**

(米子市文化振興課)



豎堀全景



豎堀から見上げる米子城本丸



豎堀の高低差